

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	ウキウキさくらんぼ			
○保護者評価実施期間	2025年2月17日		～	2025年3月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34名	(回答者数)	32名
○従業者評価実施期間	2025年2月17日		～	2025年3月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	プログラムが充実している。	- 子ども達、一人一人が楽しめるように、常にしっかりと声掛けをして、スタッフ全員がサポートしている。 - 集団療育を基本としながらも一人一人のウィークポイントを見い出すことを強く意識している。	- スタッフ間の情報共有をもっと密にする。 - 常に計画案の見直し、ゆとりのある療育時間の確保をする。 - 常に振り返りを行う。
2	ゆったりしたスペースが確保されている。	広いスペースを有効的に使った、プログラムを多数実施している。	プログラムが固定化しないために、スペースを活かした新規立案を行う。
3	スタッフの人数が多く、また専門職員も充実しており、一人一人に対応した支援が充実している。	PT/OT/STが一人一人に対応した専門的支援を計画し実践している。また、他のスタッフも、そこから学び、しっかりとサポートしている。	PT/OT/STと他のスタッフが協力し、子ども達にとってより楽しく、必要な体験ができるよう工夫を加えていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者や地域に関わる機会が少ない。	- 保護者同士のプライバシーの問題について、事業所として関与しづらい一面がある。 - 地域の催しと利用時間のズレが生じていたり、参加を拒まれることも現実では起っている。	事前に地域のイベント等を把握し、事前調整をしっかりと行うことが肝要と思われる。その上で早期に予定を立てて保護者や利用児にアナウンスしていく。
2	利用児それぞれの担当者会議等による連携の機会が少ない。	- サービス提供時間中の人員の確保が難しい。 - 園の先生方との都合の良い時間帯と事業所の都合の良い時間帯が合わないことが多い。	- 普段から送迎時の申し送りを徹底する。 - 面談等は定期的に行うため、日程調整が必要となる。